

特集

教職センターが開設されました

- 教職センターの開設あれこれ
- 先輩だより
- 学科&大学院の Topics of the year
- 教員エッセー
- 新任教員紹介
- 退職教員
- BOOKS 新刊紹介
- 年間行事
- 公開講座・講演会一覧



教職センターの開設

教職センターが開設されました！

副センター長
内海崎 貴子



2017年4月、川村学園女子大学教職センター(以下、教職センター)が開設されました。現在、教職センターは、教職課程を履修し教員をめざす学生や保育士資格を取得しようとする学生のために、教職課程ガイダンスの実施と個別相談・履修指導、学校ボランティアの相談、教員採用試験対策講座の実施など、様々な支援を行っています。

教職センター設置の背景には、文部科学省による「高等教育改革」と「教職課程の質保証・向上」という2つの教育改革の流れがありました。2015年12月には、中央教育審議会が「これからの学校教育を担う教員の資質能力向上について～学びあい、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」という答申を出しました。教職課程を有している本学では、この答申の趣旨に沿って、「教員

養成に関する改革」を進め、教職課程の充実化を図るために、「教職課程に係る質保証・向上の仕組み」として教職センターを設置したのです。

本学では、開学以来、女性の社会貢献/職業として歴史のある教職に着目し、幼稚園や小中高校の教員、栄養教諭、保育士を養成してきました。すでに、多くの卒業生が、教員や保育士としてそれぞれの現場で活躍しています。

周知のように、本学の建学の精神は、「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」を育成することを通じて「社会へ奉仕」することです。この建学の精神に基づき、本学教職課程では、教員養成に対する理念として、「教員としての基礎・基本となる教育能力を身につけた、優れた教員の養成」を掲げています。ここでいう「優れた教員」とは、①教職に対する強い情熱を持っている、②教育の専門家としての確かな力量を身につけている、③総合的な人間力を有している教員のことを指します。このような教員を養成することが、本学教職課程の目的です。すなわち、本学は、高度な専門性を備えた実践的指導力のある教員の養成を行うことをめざしています。

教職センターは、このような本学の教員養成に対する理念のもとに、設置されています。教職センターの場所は、2号館1階、修学支援室の隣です。教職を担当する教員や職員が常駐していますので、心配なことや困ったことがあったら、相談に来てください。

— 開設初年度の活動報告 —

「よりよい教員になって貰うために、よりよい教員を育てるために…」、われわれ教職課程に関わる一人一人のそんな願いのもと、本学に教職センターが開設されて早1年が経ちました。初年度は幼稚園・小学校・中学校・高等学校に合計146名の教育実習生を送り出し、学校現場という活きた教科書から様々な学びを得て学生たちは大学に戻って来ました。こうした教師の卵たちをサポートするために、次のような企画を主催しました。



- ① 教職課程を履修する上でのガイダンス(4月と2月)
- ② 小学校・中学校の教師を目指す学生に向けての介護等体験ガイダンス(全2回)
- ③ 千葉県教育庁職員を招聘しての千葉県教員採用試験説明会(全2回)
- ④ 茨城県教育庁元職員を招聘しての茨城県教員採用試験説明会
- ⑤ 卒業年次生を対象とした教員免許一括申請説明会(全3回)
- ⑥ 教員・保育士採用試験対策講座(夏期と春期の2回)

一方、教職センターの運営に携わる教員の研究・実践発表の場として、『教職センター年報』第1号と第2号を刊行しました。よい教員を育てるためには、言うまでもなくサポートする側である本学教員の研鑽も不可欠です。教職センター年報にはそのような役割を持たせ、さらに1年間の活動内容を記録し、そして教員となった卒業生が様々な場面で活用できる文献にもなることを意図してつくられました。

教職センターの未来予想図はまだまだ描き切れませんが、その分、活動の可能性は無限大であるとも言えます。「学生と共に！」の気持ちを大切に、これからもコツコツ活動の図面を描いていきたいと思っています。(北村 陽)

全国初の社会学士による「家庭科」教員への道

平成30年11月、念願であった「家庭科(中学校・高等学校一種免許状)」の教職課程の認定通知が文科省から届いた。そのときの皆の喜び様は如何ばかりであったことか!



学長 熊谷 園子

この申請について

は、生活創造学部・生活文化学科に栄養士養成課程が開設されてから、ずっと懸案であった。少し当学科の来歴を振り返ってみると、もともとは人間文化学部・生活環境学科として設置認可され、消費者問題や環境問題などに特化した学科で、学位の分野は社会学、教職免許は「社会・公民」であった。教職員は、学生のためになんとか「家庭

科」を導入できないかと頭を悩ませていた。「家庭科」は、栄養士課程と親和性が強く、栄養士課程を履修することで「家庭科」のための多くの知識が自然と身につく、また、幾つかの科目は重なっているからである。

しかし、そこで問題になったのは、学位の分野のことであった。本来、「家庭科」は家政学で括られてきたからである。そんな中、これからの「家庭科」は、社会的要素を相当程度含むことが数々の論文やフィールドワークの中で示されてきたのを目にするようになり、学位を社会学のまま「家庭科」を申請してみようという機運が学内で高まった。数々の試練と、高いハードルはあったが、こうして認可を頂き、本学は、生活文化学科に初の社会学士による「家庭科」教職課程を擁する大学になった。

このことは、別の意味でも「初」のこと

である。多くの女子大で、管理栄養士養成課程を展開しているが、管理栄養士課程は科目が多く、また国家試験が待っているため教職課程は取れない。川村学園女子大学では、卒業とともに栄養士の資格が取れて、同時に教職課程も取ることが出来る。また、卒業後、食を扱う仕事や医療系の仕事に就いていれば、管理栄養士の国家試験を受けることができ、職業選択の幅が広がるという意味でも他にない学び舎を提供できたと思っている。





保育士資格に関わる保育所での実習は、2年生と3年生に2回ありました。

1回目の保育所実習は主に観察・参加実習でしたが、絵本や児童文化財を中心とした活動を実践しました。子どもたちと関わる中で、とくに印象的であったのは絵本の読み聞かせの時間でした。保育所生活で大切にされていた時間であり、私も毎日クラスに2～3冊の絵本を準備し、その日の子どもの様子にあわせて絵本を選びました。楽しんでくれるかなと不安になることもありましたが、つねに子どもたちの姿を予想しながら絵本を選ぶ等、吸収したことを次の読み聞かせに活かすようにしました。

2回目の保育所実習では、一日の保育をクラス担任の保育士として担当する責任実習がありました。私は3歳児クラスで責任

実習をさせていただき、保育士として子どもたちと関わりながら援助する中で、様々な課題をみつけることができました。1回目の保育所実習よりも気づくことや学ぶこと、考えることが沢山あり、とても貴重な時間を過ごしました。自分自身、2週間で大きく成長することができたのではないかと感じています。

保育所実習では自分の課題をみつけだし、翌日の実践に繋がれるよう意識して取り組みました。これからも子どもたちとコミュニケーションをとる時間を大切にすることを心がけ、様々なことを吸収し成長し続けていきたいと思っています。今後、実習中に得た事や感じた事を無駄にしないように、経験したことを、保育現場で活用していきたいです。



幼児教育学科 4年
佐藤 優佳

川村学園女子大学の教育実習は2回あります。1回目の実習では幼稚園の役割や機能を理解しながら子どもたちと関わり保育者の動きを学びました。実習の行われた時期は2月であり、私の入った5歳児クラス

の子どもたちは就学前の準備として昼食時間を小学校と同じようにして練習を行うことや、何か発表をする際には挙手をして話すことを学んでいました。保育者は、子どもたちの成長に合わせて子どもたち自身が考えて行動できるように関わっていることを学びました。

2回目の実習では、責任実習があり保育の流れを理解したうえで計画を立てて実践しました。責任実習では、主活動での製作活動の説明方法や、一日の流れを把握したうえで子どもたちに声を掛け注目を集めることの難しさ、気持ちを受け止めて声掛けをすることの大切さを学びました。責任実習は指導計画を立てて行いますが、子どもたちの様子は毎日異なるため計画した時間と違ってしまふことが多くあり、その際の保育

の繋がりをどのようにしたらよいのか考えることがとても難しく感じました。そのため子どもたちの様子をいくつかのパターンで想像して計画を立てることの大切さを学びました。

2回の教育実習を通して、保育の中には静と動の活動があることを知りました。集中しておちついて取り組む時間と身体を十分に動かす時間をつくり静と動のバランスを考え、子どもたちがけじめをつけられるように環境を構成し保育を行っていることを学びました。また、保育の中で認め保育を行っていることが印象的でした。認めるは、自分自身の自信になり周りの子どもたちにとっての意欲にも繋がることを知りました。子どもたちの様子を毎日よく見て気づき認めが行えるような保育者になれるように頑張りたいと思いました。

保育講習

平成28年から3年間、保育士資格取得特例科目の講習が、本大学で開設されました。これは、幼稚園教諭免許を有し、ある期間以上の実務経験を有する方を対象としたものです。資格を目指す方々の情熱と真摯に学ぶ姿にふれ、有意義な経験をすることができました。以前に本学園で学ばれた方々や教え子の方々にもお目にかかれ、社会人として立派に活躍されていることを目のあたりにし、大変嬉しく思いました。

多くの方々が、日々研鑽をつみながら、幼稚園等で多様な子どもたちに対し、愛情いっぱい保育されている様子がわかり、頭が下がります。担当した「保健と食と栄養」では、「子どものいのちを衛ることの責任と大切さに気づき、自立して生きていける子どもたちを育てていける先生・保育士



を目指していきたい」、「子どもの質問には、一所懸命に答える、説明できないことやわからないときには、一緒に考えることを大切にしたい」、「保育士等の仕事は、人の心の中に生き続ける仕事。人との出会いに感謝し、この仕事や子どもたちと一緒にいる日々を大切にしたいと思う」などの貴重なご意見や感想を頂きました。

また、「学生時代よりも、現場や子育ての経験を通してからの学びは、理解しやすい」、「久しぶりの大学生活、本当に新鮮で楽しい」、「勉強には終わりが無い。一生学んでいこう」というありがたい感想も頂きました。現場を知っていると学び方も異なってくるのでしょうか。リカレント教育、生涯学習の必要性がいわれるゆえんです。学び続ければ脳も老化しないと信じ、ともに一生勉強をして参りましょう。

本学では、来年の夏にも、保育士資格取得特例科目の講習の開設を予定しております。取得最終年度となりますので、奮ってご参加くださいませ。

(坂口 早苗)

子どもたちが未来を切り開く手助け



児童教育学科 3年
大部 仁湖

私は、10月に4週間、母校の小学校にて教育実習を行いました。担当学年は2年生で、指導教諭は当時お世話になった恩師でした。実習は、授業見学と教科指導補助を中心に、授業実践や給食指導補助、清掃指

導補助を行いました。休み時間には、外へ出て鬼ごっこやドッチボールをしたり、図書室へ出向いたり、教室で粘土遊びをしたりと、様々な場所へ出かけて担当学年以外の児童とも積極的に交流しました。

初めの1週間で多くの先生の授業見学と、「教師としての在り方」「服務と管理」「児童(生徒)指導」についての聴講を行い、2週目からは指導の補助に入りました。3週目から授業実践が始まり、指導の先生に助けていただきながらも、一人の「先生」として、児童の前に立って授業を行いました。

児童教育学科では、1年生のうちから指導案を書く練習をはじめ、模擬授業もたくさん経験します。1時間(45分)通しの模擬授業を行う機会もあります。そのため、児童の前で授業をすることに抵抗はなく、むしろ実際に小学生に授業をすることが楽し

くてたまりませんでした。「楽しく学ぶ」をモットーにデジタル教材を活用するなど工夫したすべての授業で、児童の反応がとても良く、1時間(45分)の授業計画にかけた数日という時間は無駄ではなかったと感じます。また、実習中は、すべての時間において“児童と同じ目線で”“一人ひとりを大切に”することができました。

実習を終えてからも、地域のイベントや学校行事に積極的に参加し、時間があれば休みの日に地域の公園にも訪れています。

“楽しい授業”“児童と同じ目線で”“一人ひとりを大切に”という、私の今までのモットーに加えて、“人との出会いを大切に”今後も小学校教諭を目指して、知識と経験を積み上げます。そして、小学校教諭として、子どもたちが未来を切り開いていく手助けのできるよう努めていきます。

5月28日から6月15日にかけての3週間、我孫子市立白山中学校に母校実習を行った。実習に行く前は3週間という長い期間を教師として勤めあげることができるだろうかと正直、とても不安だった。しかし、振り返ってみると、3週間は短く、あっという間に過ぎていった。その中で、実習という特別な場でなければ得ることのできない貴重な体験をすることができ、とても素晴らしい時間を過ごした。

私がお世話になったクラスは、指導教諭が担当している2年7組だった。主に私は、指導教諭の下での補佐役という立場だったため、私主体で学級経営をするという機会はなかったが、現場で働く先生の学級経営を間近で見ることができた。このクラスは、学校全体の印象と同様、とても落

ち着いており、男女ともに分け隔てなく仲の良いクラスという印象を受けた。一見、問題の無いように感じられたが、生徒一人一人は様々な悩みや問題を抱えているのだということも分かった。最近では、子どもの悩みの可視化が本当に困難になってきているのだと痛感した。その中でも、先生方は生徒のわずかな変化に気づき、様々な形で対処していた。指導教諭の場合は、生徒と関わる時間を最優先し、職員会議開始前のわずかな時間に生徒に声かけを行い、指導していた。私も、指導教官にならって声かけを共に行った。この声かけの実施によって、生徒のわずかな表情の変化などが、少しずつだが分かるようになっていった。授業の時にも、生徒たちの表情などから授業をどのように工夫していけばよいかなど



中学校実習

国際英語学科 4年
中村 珠璃

を、少しずつだが考えることもできた。実習が始まった当初は、生徒たちの表情をしっかりと見ることができず、彼らの考えを理解するにはどうしたらよいかとても不安だったが、少しの声かけや挨拶などで、当初より少しだが、生徒のことが理解できるようになったことは大きな収穫だった。

専修免許

大学院 人文科学研究科 教育学専攻 金子 道子 さん

初任校の千葉県立柏特別支援学校で、自閉症の子どもたちと関わりながら特別支援教育の担任として教員の一步を踏み出しました。小学校で学んでいる発達障害のある子どもの支援に興味を持ち、理解を深めたいと考え、我孫子市の小学校特別支援学級で経験を重ねてきました。平成24年度には千葉県長期研修生としての機会、特別支援教育の今日的課題「小学校の就学支援の連携の在り方」で、研究をまとめました。

現在校に移り、15年間の教員生活で、「障害のあるなしに関わらず、子どもたちは共に学ぶべきである。」という確信を得ることができました。また実践を重ねる中で、通常の学級の教師や子ども、保護者に至るまで、障害理解を働きかけることの大切さを学びました。

そこで、本大学院で「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習の質的向上の研究」について学びたいと願い、現職で実践

してきた交流及び共同学習の事例児童の追跡研究とインクルーシブ教育等の理論研修との往還カリキュラムによって、自己知見を広げています。教育学専攻の先生方には、私の現職という立場を理解し配慮して頂きながら、これまでにない学びの機会を支えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちの学び方や多様な学びの場を模索し提案し先行実施することは、本大学院の目指す、「生涯を通じて高度な教職専門性と教育実践力を刷新していく人材(学び続ける教員)」となり、今後の共生社会を目指す「インクルーシブ教育の実践ができる人材」として、地域のリーダーシップを図る教師の一人として、私自身、日々成長していくものだと感じています。



教壇に立つ先輩だより

松平 七海 国際英語学科 2015年3月卒

私は現在、千葉県の中学校で英語の教員として勤務しています。採用から早くも4年が経ち、少しずつ仕事にも慣れてきました。現在は中学3年生の担任と3年生の3クラスの英語の授業を担当しています。今の学年の生徒は私が初めて1年生から担任を持った学年です。みんな素直で人懐こい性格なので一緒に過ごす日々が本当に楽しいです。それと同時に、あと数ヶ月で卒業してしまうのだということを寂しくも感じています。また、初めての3年生ということもあり、進路の指導等でわからないことが多くありますが、様々な先輩の先生方に教えてもらいながら日々勉強の毎日です。



生徒たちと過ごす日々は大変刺激的で、生徒たちから学ぶこと、考えさせられることが多くあります。特に体育祭や合唱祭などの様々な行事ごとを通して大きく成長する姿には毎年感心させられます。クラスで団結し、勝ち負けを超えた大切なことを学ぶ姿や、みんなの前に立って行事を立派に作り上げていく姿は大変頼もしく感じます。様々な経験を通して、少しずつ成長していく姿が見られることも大変喜ばしいことです。そのたびに私ももっと頑張ろうと勇気付けられるのです。

今、大学時代のことを振り返ると仲間とともに何度も英語の模擬授業を行い、互いに切磋琢磨し合ったことや、採用試験に向けて先生方にお世話になりながら面接の練習を行ったことを思い出します。改めて今の自分があるのは、私の周りにはいる様々な人のお陰であると思うのです。

いよいよ来年度は5年目となり、今の学校での勤務の最後の1年となります。自分ができることを精一杯やり、生徒のために全力を尽くせる教員になれるようこれからも努力していきたいです。そして、日々生徒たちとともに成長していきたいと思います。

川島 尚子(旧姓:半田) 史学科 2004年3月卒

教員となり15年目を迎えました。現在は中学校で日々中学生の若いパワーと戦う毎日です。自分自身、年々子供たちとのジェネレーションギャップを感じます。しかし、その中で、子供たちがいかに興味を持ってもらえる授業を行うかということが非常に重要だと思う日々です。

授業を行うには、まず、授業内容が正確であることが大前提になります。そこで、自分自身の持っている知識が正確であるということはもちろんですが、きちんと教える事項を自分自身が把握し、理解するという事が大切だと思います。さらに授業では、教える物事・人物等に興味を持ってもらい、理解してもらう必要があります。そのために+αの知識というものが大切になります。どれだけ自分がしっかりと準備をして授業に臨めるかが重要になるのだと思います。そういった準備の中で、私は常に自分自身学び

の立場にいるという事が重要だと考えています。

学校生活には様々な行事や部活動などがあります。そうした行事などで子供たちと一緒に盛り上がり、楽しむことも大切だと思っています。「楽しむときは一緒に思いっきり楽しむ」が私の中のルールです。そうすることで、子供たちとの距離が縮まり、クラスや、部活動の運営がともしやすくなります。時には体力的にきついなと思うこともありますが、一緒に全力疾走したり、筋トレしたりと、常に生徒と過ごすことを心掛けています。

子供たちと、日々生活していく中で、自分自身も成長する。それこそが教師の喜びではないかと私は考えます。そして、子供たちが胸を張って卒業の日を迎えてくれることがとてもうれしく思います。卒業後もたまに「先生」と卒業生が職員室に訪ねて来てくれる、そんな日々には私は教師という仕事にやりがいを感じます。



中村 綾夏 日本文化学科 2017年3月卒



私が教職に就きたいと思うようになったのがいつからだったのかはわかりません。ただ、高校生の私は「先生になる」と宣言していたと祖父から聞きました。大学受験時には、すでに目標となっていました。

現在、私は中学校で国語の教員をしています。教員になってから、本当に24時間もあるのかと疑いたくなるほど、1日が早く感じます。朝、子どもたちと部活動をし、朝の会、授業、給食、放課後の部活動、下校指導。文字にすると、決められた時間割の中での繰り返しのように思われますが、何一つ同じことはありません。毎日変わる子どもたちの姿、表情、そして毎回の授業、多くの学校行事。学びの連続です。

大学生の私も学ぶことに必死でした。教育に関する知識や経験も浅く、そんな私が教師になるには、大学での学びこそ全てでし

た。古典文学を専攻しながら、教職課程を取り、教師を目指しました。他の学生より授業数も多く、空き時間も教材研究や準備に追われる毎日でしたが、その充実感が心地よかったことを覚えています。成長の為にどんなことでも取り入れたいと、自らの未熟さに焦りを感じていたのかもしれませんが、また、大学には多くの出会いがありました。一緒に教師を目指した仲間や、学科や教職の先生方、先輩や後輩の存在に私の大学生活は支えられました。先生方は、私の模範でした。学生との接し方、授業、話し方、立ち振る舞い。教師を目指す上で、一番近くにいる大学の先生方の影響は、今でも教師としての基盤となっています。

私はまだ2年目の駆け出しの教師ですが、実際の学校現場はずっと過酷で、難しいです。うまくいかないことばかりで投げ出したくなることもあります。しかし、子どもの成長や純粋で一生懸命な姿をこんなに間近で見られる職業は他にありません。熱く優しい先輩教員に支えられながら、未来ある子どもたちの育成に携われることを幸せに思います。

小林 清華 (真由美幼稚園 園長) 幼児教育学科 1999年3月卒



卒業して早20年。その年月も社会に出るからはあつという間に感じます。

そのような中、保育士資格特例科目の講習で再び大学で学ぶという機会が訪れました。保育士資格取得の特例制度が来年度までと知り、保育士資格を持っていない私の最期のチャンスだと思ったからです。いざ懐かしの構内を進み教室に入った瞬間、当時の記憶が蘇りました。その教室は変わらず、座っていた場所や仲間の姿まで浮んできて本当に懐かしく、またこんなにも一瞬で少し前のことのように戻れるのかと驚きました。6日間、朝から夕方までの学びでしたが、当時と違うことは、幼稚園の園長、主任、一般の先生、今は教育の仕事から離れている方など様々な立場で受講生として一緒に学ぶ環境にあったことです。現在の日常にはない新鮮な時間でした。また、授業では皆現場経験を踏まえ

た上での知識を深めることができるため、学生時代とは理解の早さが違いスツと頭に入ってくることも大きな学びとなりました。意見や質問も積極的に出て、更に情報を共有し皆が得ることもありました。そして新たな知識の学びと現状の再確認ができる貴重な時間となりました。

私自身園長となり15年目を迎えましたが、悩んだり判断に迷うことは多々あります。簡単ではありませんが、子どもたちの笑顔に触れ元気をもらっていることを実感します。職員、子どもたちが共に目標への達成感を得て、成長した姿を感じることができる職場は教育現場ならではの素晴らしいものです。いつまでも探究心や感動の気持ちを忘れず、人として成長できると良い仲間との出会いも増えます。プラスの言葉を発している人、笑顔の人には良いことも寄ってくると、心に置きながら私も失敗を乗り越え次へと向かっています。

貴重な時間をありがとうございました。

武藤 瑞貴 (群馬県みどり市笠懸小学校)

心理学 2007年3月卒

私は、大学で臨床心理学を専攻しました。人の心や精神疾患について学びました。その中で、発達障害について知り、興味を持ちました。学校現場で、理解されず問題児扱いされてしまうという現状を知りました。学んだ知識を生かし、学校現場で子ども達に携わる仕事がしたいと思い、教師として働く道を選びました。学科の講義と教職の講義と大変な毎日を送ったことを覚えています。ですが、先生や職員の方、友人のサポートがあって、両立させることができました。

大学では、女性が社会でどのように仕事をしていくかについても学ぶことができます。仕事で悩んだ時や困った時には、とても役に立っています。私自身のバイブルとなっています。

大学を卒業後、臨時教職員として働き始めました。私が働き始めた頃は、新しく特別支

援教育がスタートした時期でした。まだまだ、特別支援教育についての現場理解が乏しく、スクールカウンセラー、学校カウンセラーとの連携もうまくいかない現状がありました。その中で、大学で学んだ知識や経験がとても役立ち、カウンセラーとの連携の在り方について、前向きに考えていくことができたと思います。また、発達障害を抱えた児童生徒との関わりについても専門的な知識を持って、適切に指導に生かすことができたと思います。

今では、教員採用試験にも合格し、小学校の教員として日々子ども達と楽しく生活を送っています。年々子ども達の発達の様子や心理状況は、多様化しています。大学で学んだ事を土台として、切磋琢磨する毎日を送っています。

教職を目指す皆さん、大学で多くの事を学び、それぞれの未来へと羽ばたいてほしいと思います。



根本 伸子

社会教育学科 2003年3月卒 / 生涯学習学専攻 2005年3月修了

現在、千葉県立特別支援学校流山高等学園で勤務しております。本校は、社会自立・職業自立に向けたキャリア教育に取り組んでおり、生徒は企業への就職を目指しています。園芸技術学科、工業技術学科、生活技術学科、福祉流通サービス学科の4学科8コースに分かれており、私は園芸コースに所属し、午前中の専門実習では生徒と一緒に花を育て、午後の授業では音楽を担当しています。



また、今年度は、千葉県教育委員会の主催している長期研修制度の選考を通過することができ、4か月間の企業研修に出ることができました。短い間でしたが、高島屋柏店で販売員として働いたことで多くの学びを得ることができました。

このように本校で必要とす

る知識は多岐にわたり、掃除や調理、マナー等基本的な生活技能の他、各コースでは、専門の職業技術を教えています。中には得意なこともあれば、私自身初挑戦のことも沢山あり日々、試行錯誤の毎日です。

学生時代を思い起こすと、当時は単位数制限がなかったこともあって、興味のある授業を片っ端から受けており、1限から5限までフルに授業が入っていた日もありました。中には途中で投げ出してしまった授業もありましたが、とにかく興味のあることを思う存分学ぶことができた学生時代の経験が、今の私自身の土台となっているように思います。また、在学中は、美術部・演劇部で活動し、鎌ヶ谷市や我孫子市等でのボランティア活動を通じて多くの方と関わり、多くのものを学ぶことができました。一緒に学んだ仲間や多くの先生方や地域の皆さまから多様な考え方を教えていただきました。川村学園の皆さまには、本当に感謝しております。

将来の自立に向けてひたむきに学ぶ生徒の姿に、自分自身も身が引き締まる毎日です。これからも生徒たちの夢を応援していけるよう、川村で培ったチャレンジ精神を忘れず、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

文学部

文学部 Topics of the Year



国際英語学科

国際英語学科では、さまざまな場面で英語を使う体験を重ねる「アクティブ・ラーニング」を重視しています。

5月19日(土)、「国際コミュニケーション演習(3)」(通訳入門)を履修する8人の学生たちが、担当の門田先生に引率されて明治神宮で通訳ガイド実習を行いました。事前に明治神宮社務所に申請し、ボランティアガイド活動の許可を得ています。初対面の学生にガイドをさせてくれる人は当然なかなかいないのですが、めげずに何度もアプローチします。学生たちはこの日のために、明治神宮創建の由来や主な見どころなどについて英語でどう説明するか考え、時間をかけて準備しました。丁寧に、また厳しく指導して下さった門田先生、そしてガイドを受け入れて下さった観光客の方々に心より御礼申し上げます。

11月2日(金)、英語パフォーマンス活動を行うキスチャックゼミのメンバーが、キスチャック先生作のミュージカル「The Elves and the Shoemaker」(小人と靴屋)の公演を行いました。ストーリーは、貧しい靴屋夫婦を助けるために小人たちが夜中に働いてみごとな靴を作り上げるというものです。

劇中にはいろいろな言葉遊びやコミカルな掛け合い、歌とセリフのオーバーラップなどがあって、難しい単語こそ使われていませんがけっして単純なものではありません。学生たちは数ヶ月の練習を経てこの日のぞみ、他のゼミの学生や先生方も鑑賞に訪れ、惜しめない拍手を贈りました。(菱田 信彦)



史学科

史学科では、アクティブに歴史を学んでもらうため学外見学の機会を多く設けています。今年も各学年で見学に出かけました。

1年生は4月5日、庭園美術館と迎賓館赤坂離宮に出かけました。つづいて4月21日には、上野の東京国立博物館で「名作誕生」展と「アラビアの道」展を見学。最初は緊張していた1年生も、見学を通してずいぶん打ち解け、友達ができたようです。

2年生は6月30日、2つの見学を行いました。まず午前は、東京国立博物館平成館の平常展。日本古代の考古遺物を観察・撮影して、「日本史概説(1)」の小レポートを書きます。午後は日比谷に移動して「ドン・ジョヴァンニ」を鑑賞。オペラは初めての学生がほとんどでしたが、華やかな劇場の様子も含めて、楽しめたようです。

3年生は6月9日、ゼミの調べものを兼ねて国立国会図書館を見学。巨大な図書館に驚いていました。また、歌舞伎や文楽・能などの伝統芸能も鑑賞しました。

4年生は自分たちで企画してゼミ旅行に出かけます。今年は3つのゼミが京都・滋賀・広島などに行きました。仲間たちとの旅行は、学生たちにとって忘れられない思い出になったようです。

史学科ではほかにも、ムンク展や日本の中世文書展、大・地図展など、さまざまな見学会を予定しています。いきいきとしたイメージをつかんでもらえればいいと思います。(辻 浩和)



TOPICS OF THE YEAR TOPICS OF THE YEAR

心理学科

公認心理師は、心のアセスメント、援助、関係者支援をする人に対する新しい国家資格です。本学ではこの資格取得にいち早く対応し、平成30年度から新しいカリキュラムをスタートしました。

今回は新しく加わった「実習」をご紹介します。「実習」は、保健医療を含む複数分野で80時間以上行くと、法律で定められています。本学では「入門(1年次)」「基礎(3年次)」「応用(4年次)」の3種に分け、段階的にまなびを深められるよう工夫しました。

1年次では福祉領域を中心に援助体験や現場見学、3年次では教育現場でサポート体験、4年次では保健医療や産業領域の場で活動支援や事例陪席などを行います。実習を通して心理援助の専門的な仕事に触れ、心理職の役割と責任をしっかりと理解します。

公認心理師受験資格を得るには、こうした「実習」をはじめ所定科目を納めて卒業し、さらに2年以上の実務経験が必要です。大学院に



進学すれば、より専門的な学習と実習を重ねることで、実務経験なしで受験資格が得られます。本学大学院は臨床心理士一種指定校なので、公認心理師と臨床心理士のダブル資格取得も可能となります。

このように心理学科では、心理学の専門的知識と技能を修得して「こころの援助」の専門家になりたい学生の資格取得を応援します。

(北原 靖子)

日本文化学科



「これまで知らなかったことを勉強するのがとても楽しい！刺激的です！」「今の生活を同年代の友人に話すと「すごいね！」「羨ましい！」と言われるよね！」と声をそろえて話すのは栗林さゆりさんと深谷敏子さん。

二人は平成30年度に新設された「シニア社会人学生制度」を利用して入学した日本文化学科の新入生です。今回はお二人に焦点をあてながら「シニア社会人学生制度」元年を紹介したいと思います。

日本の文学や文化に関心があった栗林さんは、毎年開催される公開講座に以前から参加していました。そこで面白い授業をする先生がいることを知り、はじめは聴講生で大学に通おうと大学に相談しに来ていまし

た。相談を重ねていくなかで「シニア社会人学生制度」が始まることを知り、受験を決意されました。深谷さんは、社会人として会社に勤めていて、退職後は大学に行こうと考えていたそうです。そんな折に、購読していた地域情報誌に掲載されていた大学案内を見て「シニア社会人学生制度」を知ったそうです。きっかけこそ偶然でしたが、もともと日本語教師に興味があり、大学進学が具体的で実現可能な目標となったそうです。

学修面では、学びへの積極的な姿勢が印象的です。彼女達が有する断片的に蓄積されてきた知識と経験が、学問的枠組を提供することで「そういうことだったのか！」と繋がって体系づけられていく様子が、彼女達との応答を通して伝わってきます。シニア社会人学生と他の学生との議論では、世代のギャップからお互いに発見と学びが生まれ、多様な考え方を享受できる波及効果もありました。

日本文化学科では今後も多くのシニア社会人学生のご入学を心待ちにしています。
(伊藤 純)



幼児教育学科

幼児教育学科では一年生の必修科目として幼児教育体験学習を実施しています。本年度の内容をご紹介します。

まず4月、夏休みの附属保育園体験実習の準備として個人票を丁寧に書くことを学びました。5月、畑を耕し野菜、花の苗植え、藍の種まきを行い、当番を決めて毎日ジョウロで水やりの世話や観察日記を続けました。6月には国立科学博物館を見学しテーマ別にワークシートに沿って調べました。そして7月には育てた野菜を収穫しサラダにして試食しました。今年は豪雨や猛暑日で無事収穫できるか心配されましたが、元気に育ち、特にミニトマトは沢山収穫できミントの香りを楽しみながら皆でいただきました。また7月には附属保育園の園長先生などによるオリエンテーションが行われ保育所の仕事や体験実習への心構えを学びました。その後8月、附属保育園で二人チームに分かれて1日実習を体験しました。はじめての保育現場に戸惑いもありましたが、チームで支え合い子どもと触れ合って様々な気づきがありました。9月にその振り返りを行い、子どもの創造力、発想、個性の豊かさに驚いたり、保育士が一人一人の子どもに丁寧に言葉をかけている様子に感心したといった感想がありました。自分の将来についてしっかりしたビジョンが見えてきたようです。また9月には育てた藍の葉を使いハンカチの叩き染めと、サツマイモ掘りを行いました。今年はよく育った大きなサツマイモがとれました。10月にはグラウンドの一角で飯盒炊爨を行いました。グループで協力してカマドを作り火を焚き、カレーの調理、飯盒で炊飯し、取れたサツマイモで焼き芋をして皆で美味しくいただきました。11月以降も楽しみながら様々な保育に活かせる体験が続きました。

(竹内 啓)

教育学部

教育学部 Topics of the Year



児童教育学科

今回、私たちは、昔話や教科書のお話ではなく、ディズニー映画『アナと雪の女王』を取り上げました。この物語なら子ども達がきっと楽しむことができると思ったからです。とは言え、この物語を劇にした前例は少なく、台本のない白紙の状態から私たちの劇づくりが始まりました。

この物語は周知の通り、歌が大切な役割を果たしています。歌とセリフ、舞台装置や小道具、そして役者がどのようなバランスでこのディズニー映画の世界観を表現するのか、みんなで沢山の意見を交わしました。

劇の制作を通して、人それぞれに個性を発揮できる場所があることがいかに大切かを学びました。自分も相手も活かせる役割を見出すことで、心に残る劇が仕上がるのだと思います。私たちがそれぞれの役割をきちんと理解したのは、通し練習をした後からでした。それからは当日まで怒涛の勢いで進んでいき、様々な提案の中で主張がぶつかったりしながらも、心がひとつになって、作品を作り上げることができました。

教師の道に進んだ後もこの思い出を皆が大切に、児童と共にまた新しい何かを作りだせるのではないかと考えています。4回の公演とも、幼児や小学生たちが私たちの劇を喜んでくれて、子どもたちには心踊るものを見つけ、提案する力がある、と私たちが感じることもできたこともとても嬉しいことでした。

来年は、学園祭の劇を引き継ぐ1年生に、計画性を持って進めることの大切さを伝えて、サポートしたいと思います。(新藤 真衣)



生活創造
学部

生活創造学部

Topics of the Year



生活文化学科

「健康」がキーワードの栄養士を養成している生活文化学科です。今年度も学生は、産官学連携事業、食育講座など積極的に取り組みました。では活動報告を?でもその前に、学生の手から誕生した本学科のキャラクターを紹介します。「川村せいかです。食べることが大好きです。学科紹介などを学生の皆さんと一緒に活動しています。来年度から、家庭科教員の免許が取得できます。」

産官学連携

我孫子市農政課とあびこ農産物直売所あびこんから依頼を受け、お弁当の共同開発と販売を行いました。3年生全員が、9つのゼミに分かれ弁当の企画、レシピ開発、試作、商品化を競い合いました。プレゼンテーションでは、見た目、原価コスト、作りやすさ、地元農産物の活用、独自性の5項目を評価し3品が選定されました。最優秀賞は、「エネルギー量や食塩制限があってもおいしく、満足できる」をコンセプトに開発した「美彩食弁当」が、ヘルシーさと原価コストを抑えた点で評価され選ばれました。この弁当は11月17日(土)、第37回我孫子農業まつり(水の館)より450円で販売開始、初日は90分程で60個完売し、嬉しさいっぱいです。販売に先立ち学生も我孫子市長定例記者会見に臨み、弁当や開発の流れが新聞記事で紹介される貴重な経験をしました。他の弁当も順次、販売予定です。



美彩食弁当

食育講座

全国栄養士養成施設協会と本学の後援を頂き「スマイルキッチン・味覚チェックで美味しい食事」を9月14日(金)開催しました。今年度の対象者は18歳以上、減塩が目的の食育講座です。濃度の違う甘味、塩味、苦味を各自でチェック後、評価は学生が行い、減塩料理では調理のサポートをしました。日本茶の美味しいいれ方も加えた盛りだくさんの内容で、学生の実践力も養う時間となりました。(今井 久美子)



観光文化学科

女子観光教育のパイオニア

女子観光教育のパイオニアである観光文化学科は、2000年に開設されました。2015年には我孫子キャンパスから目白キャンパスへ移転し、今年度は目白キャンパス入学の学生が初めて卒業します。

実践的な教育

講義で学んだ理論や知識が実際の現場でどのように生かされているのか、どのような課題が発生しているかなどを自分の目で確認する「観光文化実践Ⅰ～Ⅹ」では、観光地でのフィールドワークや産学連携、長期インターンシップなどを実施しています。

例えば、「観光文化実践Ⅳ」(担当:小堀貴亮)では、台東区谷中の魅力とまちづくりを探るべくフィールドワークを実施し、まち歩きマップを作成します。各自がデザインした「オリジナル観光マップ」のなかには、プロ顔負けのものもあり、実際に谷中で活用されています。

産学連携

藤田観光株式会社とは、広報・宣伝するには何をすべきかを考えました。そして、世界最大の観光イベントであるツーリズムEXPOの藤田観光ブースで、ブランディング戦略に即した広報活動の一端を担いました。

春秋航空日本株式会社へは、旅客増加のためのツアープランを提案しました。観光地視察や企業担当者へのプレゼンテーションを実施し、実際に広島へのツアーを発売しました。(種村 聡子)



学生が作成したオリジナル観光マップ



春秋航空、JTB、せとうちHolics 担者にツアープランを説明する学生たち

大学院

大学院人文科学研究科は、心理学専攻・教育学専攻・比較文化専攻の3つの専攻を有しておりますが、今年は心理学専攻、特に臨床心理学領域についてのご報告をさせて戴きます。と申しますのは、これまで長い間、待ち望まれてきた心理職の国家資格である「公認心理師」が、いよいよ今年度から誕生することとなり、当大学院臨床心理学領域においても「公認心理師」対応カリキュラムが動き始めたからです。これにより、これまで140名以上の「臨床心理士」を輩出してきた実績の上に、さらにこの国家資格「公認心理師」資格取得も可能とし、主要心理職2資格同時取得が可能となりました。

去る9月9日(日)には第一回の公認心理師国家試験がとり行われたのですが、今後5年間は移行措置期間として、これまで心理職として5年以上勤めてきた者に対し「公認心理師」試験受験可能という特例

措置が設けられ、当大学院出身の「臨床心理士」として活躍している多くの修了生たちも、この第一回国家試験を受験いたしました。写真は、国家試験を1ヶ月後に控えた8月の初週、「公認心理師」試験対策として当学で勉強会を開催した時のものです。懐かしい顔ぶれの修了生たちが久しぶりに集合し、教える教授陣たちの講義にも、知らず知らずのうちに熱が入りました。この号が出る頃には、多くの修了生たちが、無事、心理師国家資格を得て、日々の臨床業務に携わっていただいていることでしょう。

(追記:今年度より大学院でも、満40歳以上の方を対象として学費面をサポートする「シニア社会人学生制度」が始まりました。詳しくは事務部入試広報までお問い合わせ下さい。)(西川 将巳)



研究棟の窓辺にて

近隣の宿場町探訪

文学部 日本文学科
真田 尊光



本学の我孫子キャンパスがある千葉県我孫子市とすぐ隣の茨城県取手市には、かつては水戸街道をつなぐ宿場町である我孫子宿と取手宿があったことは、みなさんをご存知の通りだと思います。私が担当する科目では、この2つの宿場町にかかわる文化財や施設を見学する学外授業を毎年行っています。私自身もその学外授業で初めて目にしたり、知ったりすることが数多くあり、毎回新鮮な心持ちで現地に臨んでいます。まずはこの場を借りて、そうした見学で知り得たそれぞれの宿場町の見どころをご紹介しますと思います。

まず、我孫子宿は水戸街道沿いに東西約1 km 渡る規模で形成されていたそうで、多くの人馬が行き来する交通の要衝でありました。現在の我孫子市内には宿場町だったころの面

影はほとんどなくなってしまっていますが、寿1丁目には本陣跡の碑が立てられており、また旧村川別荘には本陣建築の一部(離れ)が移築されてそのままも残っているなど、よく探せば、まだ街中にその名残を見つけることができます。

ところで旧村川別荘とは、東京帝国大学で西洋古代史を教えていた村川堅固教授が大正期に手賀沼のほとりに建てた別荘のことで、現在は市の指定文化財として大切に保存・活用されています。ちなみに同別荘の「ゼミ室」はガラス張りの大きな窓から当時は手賀沼を一望出来たそうで、大正期のモダンなつくりが醸し出す雰囲気がとても素晴らしいです。週末になるとその部屋で研鑽を積んだであろう当時のゼミ生が羨ましく思えます。学外授業では、この旧村川別荘をはじめ、その付近にある白樺文学館や志賀直哉旧宅、杉村楚人冠記念館など、宿場町を経て近代の我孫子に誕生した文化財を保存する施設もあわせて見学しています。

一方、隣の取手宿ですが、街道沿いに展開するだけでなく、利根川水運の拠点・集積所もあったため、大規模な宿場町が形成されていたといわれています。旧街道沿いはいまも往時を偲ばせる古建築がいくつか立ち並んでおり、そのなかに本陣の染野家住宅も現存しているため、本陣通りと呼ばれてい

日本のアニメ

生活創造学部 観光文化学科
戸澤 純子



本稿では、アニメの話をしたと思います。現代日本の文化の一端を担う存在となったアニメは、私の研究テーマのひとつでもあります。私は、ヒトが外界を知覚する仕組みを研究していますので(知覚心理学と言います)、外界の中にはアニメや絵画などの二次元空間も含まれます。

日本のアニメの特徴を大雑把にまとめると「平ら」で「動かない」ということでしょうか。日本でも大変人気があるディズニー作品と日本のアニメを比較すれば、違いは明らか

でしょう。ディズニーの「トイ・ストーリー」に登場するおもちゃたちは、圧倒的に奥行のある空間を、実に生き生きとスピーディに動いているように見えます。一方日本を代表するアニメである「ドラえもん」はどうでしょうか？人物や建物は平べったく、動きが乏しく見えると思います。

アニメは本来、動いていない絵です。あたかも前後左右に動き回るように見えるのは、ヒトの眼と脳の働きによるものです。こちら辺の話は専門的になるので省きますが、ディズニーのアニメ作家たちは動かない平らな絵に、動きと奥行きの印象を与えるために、実にいろいろな工夫をしています。

ではなぜ日本のアニメの多くは、ディズニー作品とは全く違うのでしょうか？これには、アニメ製作のための様々な条件(予算や製作時間など)も影響しているかもしれませんが、しかし日本のアニメがディズニー作品のようでないのは、決して日本の作家たちの技術の問題ではありません。

私が大切と思うのは、日本の伝統的な絵画技法です。日本

伝統的な季節観をつなぐ

—教材『大造じいさんとがん』から—

教育学部 児童教育学科
田中 孝一



今年も、残雪は、がんの群れを率いて、
ぬま地にやってきました。

これは、小学校の国語の第5学年の教科書に載っている椋鳩十『大造じいさんとがん』の冒頭の一文です。この教材は、現在発行されている小学校国語教科書5社のすべてに掲載されていますから、日本の小学校に通うすべての5年生はこの作品を教材として学び読んでいることとなります。しかも、この作品はかなり以前から教科書で取り上げられていますから、世の多くの大人たちもこの作品を学んだことがあるはず

です。その意味で、『大造じいさんとがん』は、同じように長年にわたってすべての教科書に取り上げられている新美南吉『ごんぎつね』とともに、国民的な作品であり教材です。

『大造じいさんとがん』を教材として授業する際に、私が期待するのは、文学作品としてのこの作品の文化性にもっと着目することです。例えば、冒頭に引用したこの作品の第1文「今年も、残雪は、がんの群れを率いて、ぬま地にやってきました。」からは、がんが今年も日本に飛来したという事実関係以上に、雁(がん、かり)の飛来=秋の到来という日本の季節観が鮮明に匂い立ってきます。

それはどういうことでしょうか。それを考えるために、日本に飛来する雁とその雁を受け入れる日本の人々の心について考えてみましょう。

雁は秋になると遠く北国から日本に飛来します。かつては、日本各地にとても多くの雁が飛来していました。その意味で、雁は、我が国の人々にとってきわめてなじみのあった渡り鳥です。しかし、乱獲なども重なり、現在は飛来数も飛

ます。なお、染野家住宅は県指定有形文化財として保存され、週末(金土日)限定で一般公開されています。さらに、この本陣通りには明暦元年(1655)創業という田中酒造店もあります。店内は江戸時代のつくりを上手に残しており、二階は貸しギャラリーにもなっています。同店の地酒「君萬代」は取手を代表する名酒ですが、なかでも純米吟醸酒は江戸時代後期の浮世絵師・歌川国芳の描いた「流行猫の戯れ」をラベルにデザインしており、とくにおすすめです。また、本陣通りの近くには、かつて盛んであった利根川舟運を今に伝える「小堀の渡し」も運航しており、授業でも一度乗船しました。なお、乗船時に外来種の巨大淡水魚が船に飛び込んでくることもあるため注意が必要だと船頭に言われました。実際は飛び込んでくることなく無事に渡ることができました。

さて、4年前に本学に着任が決まった際に、私の頭の片隅に浮かんだのが、水戸街道と我孫子宿・取手宿のことでした。この2つの宿場は水戸街道の4、5番目の宿場です。では1つ目の宿場はどこにあったかということ、それは千住にありました。私はその千住宿があった東京都足立区の博物館で5年ほど学芸員をしていたからです。当時の私の学芸業務は千住宿の文化やそこで生まれた美術品に関する調査・研究が大部分を占めていました。本来の私の研究の専門分野は仏教美術ですが、足立区の博物館に勤務することになり、宿場のあった旧街道沿いの家々や寺社を毎日のように調査することになったのです。千住

の宿場で醸成された文化は、江戸市中のものとは似て非なるところがある独特なもので、街道沿いに立ち並んだ商家や問屋の旦那衆たちは商売に精を出すだけでなく、文学や美術も愛好し、互いに競い合うように粋な暮らしをしていました。そのような暮らしぶりは各家に伝来する美術品や諸資料から見出すことができ、それらを博物館の展覧会でたびたび紹介してきました。私の退職後も同館では千住の文化と美術をテーマにした展覧会を継続的に開催していますので、ご興味のある方は是非博物館に足を運んでみてください。

今後も授業では我孫子・取手市の文化財や施設の見学を行っていく予定ですが、さらに両宿場町に関連した研究のテーマを見つけるために、探訪を続けていきたいと思えます。



取手市本陣通り (学外授業で受講生が撮影)

画に描かれた空間や人物、事物は、洋画と比較すれば平らに見えます。2枚の絵画はどちらも馬をテーマにしたものですが、どちらが日本画であるかは容易にわかるでしょう。伊藤若冲の描いた馬は、一筆書きのような線画で、とてもゆったりした馬が描かれています。一方、イギリスの画家スタブスの描く跳ね馬は、写真を見ているのかと思ってしまうほどです。どちらも一頭の馬を描いているのですが、明らかな表現の違いがお分かりいただけると思います。



図1 伊藤若冲
「柳下馬図」(部分)
(江戸時代、紙本墨画一
幅、個人蔵)

図2 George Stubbs作
Whistlejacket
(1762年、2.92m × 2.46m,
The National Gallery,
London)



このことがアニメ表現にも共通して関係しているのだと思います。日本の絵画文化を背景を持ったアニメ作家たちは、そもそも絵というのは平らなのだから、無理して立体に見えなくても構わないと(少しぐらいは)考えているのではないのでしょうか(実際、私は「奥行きなんかどうだっていいのよ」というお言葉を、日本アニメの隆盛を支えた高畑勲監督から伺ったことがあります)。そもそも動いていないのだから無理して動いて見えなくてもよい。実写映画には到底かなわないのだから、アニメにはアニメにしかできないことを追求しようとしたのではないのでしょうか。立体的に見えること、あたかも生きているように動いて見えることに固執せず、大人が子供に変身したり、男女が入れ替わったりする物語に重点を置いたのだと思います。これが平らで動かないアニメ表現と組み合わせると独特の魅力を作り、世界から日本のアニメを目標に世界から人が来てくれるようになっていきます。

来地も少なくなり、その獵も禁止されています。

一方で、雁は、日本の古典文学の中で古くから取り上げられてきました。漢籍の影響を受け、古くは万葉集に登場します。十世紀初め成立の勅撰和歌集の嘯矢たる古今和歌集でも、例えば、秋の部、春の部には次の歌を含む数首が収載されています。

初雁をよめる

在原元方

206 待つ人にあらぬものから初雁の今朝なく声のめづらしきかな

帰雁(かへる)雁をよめる

伊勢

31 春霞立つを見捨ててゆく雁は花なき里に住みやならえる

ここに登場する雁すなわち「初雁」と「帰る雁」は、古今集以降、日本文化に深く刻まれている、その代表的な姿です。秋になり、日本各地に飛来する雁の、その最初の姿を「初雁」と呼び、また春になって北国へ帰る雁を「帰る雁」と呼び、それぞれ格別にとおしみ、人々はその心に、王朝文化以来、季節観のアンカーを下ろしているのです。

教材「大造じいさんとがん」は、このような、日本文化における雁の位置付けを踏まえて読んでいくと更におもしろみが増します。しかし、

その意識で『大造じいさんとがん』を読んでいったとしても、残念なことに、実は、この作品では4年にわたる経過が描かれているにもかかわらず、このような日本の文化的な色合いをあまり表現としては出さず、季節を表す言葉は数えるほどしか見つけられませんが、作者は、この作品を読むことを通して、秋から春への季節の推移やそこの登場人物(大造じいさん、残雪というがん)の関わり合い、交流自体を描こうとしているように思えます。そのかわり、雁の文化性や伝統の知識をもって作品を觀賞してほしいと言っているかのようです。

作品の末尾近くには、春という言葉を用いた次の一文があります。

ある晴れた春の朝でした。

この文に続いて、物語の最後の場面が描かれ、大造じいさんと残雪との別れの場面になります。その斑雪のような翼を羽ばたかせて、残雪が「帰雁」となって北へ帰って行きます。ここに至り、作品は、日本の伝統的な季節観に覆われます。

授業では、このような伝統的な季節観を現代につなぐ意識をもって進めたいものです。

新任教員紹介



文学部

橋本 磨美 講師
史学科

本年度より史学科に着任しました橋本磨美と申します。主に図書館司書課程の科目を担当しています。私の専門は図書館情報学です。司書は、本のみならず広く情報の扱いを知り、人の「知りたい」という気持ちと情報を結びつけることを使命としています。多くの情報の中から必要な情報を得ることで、その人の選択や判断は変わってきます。司書を志す皆さんも、自ら意思決定して思う道に進めるよう、本学で豊かな学びの時間を過ごしていただけたらと思います。



文学部

伊藤 純 講師
日本文化学科

はじめまして、日本文化学科の伊藤純です。専門は民俗学で、おもに日本の民俗芸能について調査・研究しております。民俗学は、文献調査だけでなく、フィールドワークを重視しています。人びとの営みや考え方に直接交わりながら、自他についてシンメトリックに探究していく方法です。学生には、積極的に事象に関わり、広い視野と深い洞察力を身につけてほしいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



教育学部

馬場 結子 准教授
幼児教育学科

4月から着任した幼児教育学科の馬場結子です。専門分野は教育学と児童文化学です。ドイツの幼児教育の歴史と思想を研究しています。特にシュタイナーの幼児教育に魅了されています。また、児童文化学においては、国内外の絵本や児童文学を研究しています。これまで実際に図書館でおはなし会を開催していました。皆さんも幼児教育の理論と技術を習得し、子ども達との関わりを通して多くのことを学んで下さい。素晴らしい保育者になれることを願っています。



教育学部

古山 律子 准教授
幼児教育学科

幼児教育学科に着任しました古山律子と申します。幼児の音楽表現や保育者の音楽表現教育を専門とし、授業は「幼児音楽指導法」「弾き歌い演習」などを担当しています。このたびご縁をいただき、本学で保育士・幼稚園教諭を目指す学生さんの音楽関連科目を支援していくこととなりました。身の回りの様々なモノ・ことをキャッチする豊かな感性を磨き、子どもと共に創造性あふれる表現を展開できるような実践力の修得を目指し、精一杯務めさせていただきます。



教育学部

加藤 美由紀 准教授
児童教育学科

児童教育学科に着任しました加藤美由紀と申します。専門は理科教育と環境教育です。特に、生物多様性保全に関して、子ども向けの外来生物のパンフレットや、小学生向けのご当地植物図鑑や植物カードを作製するなどして、種の多様性とその保全の意義を伝える活動をしています。また、新たな試みとして、電気の利用をテーマに、プログラミングを体験する理科教室を実施させて頂き、子どもたちに理科を伝える楽しさを再認識したところです。どうぞよろしくお願申し上げます。



生活創造学部

佐藤 真弓 准教授
生活文化学科

はじめまして。佐藤真弓と申します。家政学の由来や本質、在り方を追究する“家政学原論”の奥深さに惹かれ今日に至っています。家政学は、人間が生きるために必要なあらゆるもの(衣食住、自然、家族、社会、文化、精神等)を“環境”という概念でとらえ、私たちがよりよく幸せに生きるために、それら環境とどのように関わっていけばよいかを探求する人間生活の学問です。授業の折々で紹介していきますので、より多くの学生の皆さんに家政学の楽しさに触れていただければ嬉しいです。



生活創造学部

築館 香澄 講師
生活文化学科

今年度より着任いたしました、築館香澄と申します。食品学・栄養学を専門とし、これまで茶の機能性成分の研究をしてきました。また、科学的な研究だけでなく、実際に国内外の茶産地を調査し文化的にも学んでいます。私が初めて茶に魅了されたのは大学4年生の時でした。恩師との出会いが私の人生を大きく変えました。大学時代に出会った人は一生の宝です。学生の皆さんには、多くの人々から刺激を受けて素直な心を育てていただけたらと思います。



生活創造学部

種村 聡子 講師
観光文化学科

今年度より着任いたしました、種村聡子と申します。専門は人的資源管理・人材育成です。観光関連産業(ホテル、航空会社など)や地域観光に必要な人材の育成・教育・訓練を研究しています。航空会社やシンクタンクでの実務経験の話しを交えながら、講義をしたいと思っています。担当科目は、「観光経営学」、「観光マーケティング」、「キャリア・プランニング」などです。これからどうぞよろしくお願申し上げます。

退職教員・名誉教授 ～2018年度～



【退職】 本学を退職する教員をご紹介します。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

- | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|----------------------|
| 長島 一比古 | 文学部国際英語学科 教授 | 生井澤 幸子 | 図書館長(文学部史学科 教授) |
| 二上 政夫 | 文学部史学科 教授 | 蓮見 元子 | 文学部心理学科 教授 |
| 馬場 結子 | 教育学部幼児教育学科 准教授 | 松井 洋 | 教育学部長(教育学部児童教育学科 教授) |
| 坂口 早苗 | 生活創造学部生活文化学科 教授 | 藤井 信行 | 生活創造学部観光文化学科 教授 |
| 寺本 久男 | 生活創造学部観光文化学科 教授 | 松原 安代 | 教育学部幼児教育学科 助手 |
| 西村 知香 | 心理相談センター 助手 | | |

【名誉教授】 名誉教授の号を授与されます。

- 坂口 早苗** / **長島 一比古** / **生井澤 幸子** / **藤井 信行** / **二上 政夫** / **松井 洋**
柳澤 安雄 / **吉武 民樹**

目白観光文化研究所 紹介

目白観光文化研究所は、国内外の観光・ホスピタリティ領域に関する情報収集、研究、教育の仕組みづくりを担う研究機関として、2015年に設立されました。目白キャンパスの立地特性を最大限に活用しながらこれらを実践し、観光・ホスピタリティ教育及び観光関連業界の発展に貢献することを目的としています。

具体的には、調査研究活動、研究会・シンポジウム・公開講座等の企画・運営、寄付講座、ゲスト講師の企画・運営、産官学連携の推進、教育手法・内容の向上を目指す取り組み、研修の企画・運営、情報の公開などです。

今年度は、産学連携(藤田観光株式会社、春秋航空日本株式会社)の推進、ゲスト講師の講演(スターフライヤー社長: 松

石禎己氏等)を実施しました。来年度には豊島区の東アジア文化都市事業の一環として、研究所主催のシンポジウム開催を検討しております。
 (種村聡子)



観光カリスマの澤功氏(写真前列右から4人目)の営む旅館澤の屋と連携して、エリアマップを作成しました。

Pick Up!

新刊のお知らせ



明治史講義
【人物篇】

副学長 教授
西川 誠 共著

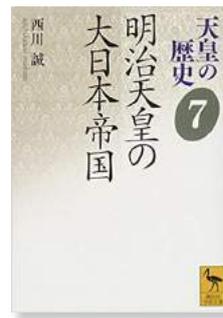
出版社: 筑摩書房
発行年: 2018年4月



明治史講義
【テーマ篇】

副学長 教授
西川 誠 共著

出版社: 筑摩書房
発行年: 2018年3月



明治天皇の大日本帝国
(天皇の歴史7)

副学長 教授
西川 誠 著

出版社: 講談社
発行年: 2018年6月



哲学する教育原理

教職センター
北村 陽 共著

出版社: 保育出版社
発行年: 2017年3月



はじめての明治史

副学長 教授
西川 誠 共著

出版社: 筑摩書房
発行年: 2018年11月



洞察の起源

国際英語学科 教授
小山 久美子 共訳

著者: リチャード・W・バーン
出版社: 新曜社
発行年: 2018年5月



2018年度 年間行事一覧

Apr.
4月

- 1日 入学式
川村学園大講堂
(目白)



- 5日 新入生オリエンテーション
国英 国立新美術館の「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」
史学 東京都庭園美術館・迎賓館赤坂離宮(4/21東京国立博物館)
心理 我孫子クラブ
日文 東京藝術大学大学美術館・旧岩崎邸庭園
幼児 葛西臨海水族園
児童 江戸東京博物館・浅草
生活 味の素食の文化センター・アクアパーク品川
観光 日比谷松本楼本店



- 12日 川村学園創立記念日

- 開花～13日 桜の公開
(我孫子)

- 18日 六華会奨学生授与式
(我孫子)



- 24日 六華会奨学生授与式
(目白)

- 29日 第9回アピシルベまつりに生活文化学科が参加

- 生活文化学科 産学官連携事業 「お弁当開発プロジェクト」
我孫子市(株)あびベジ
- 観光文化学科 産学連携事業 春秋航空日本(株)
- SA 主催・新入生対象スタンプラリー(4～5月)
(我孫子)

Jun.
6月

- 2日 日本文化実技Ⅵ(能の仕舞・謡い)
涌宝会大会(宝生能楽堂)に参加



- 27日 学生総会
(我孫子・目白)



- 13・19・27日 SA 主催・ネイル体験
(目白)



Jul.
7月

- 4日 校友会主催・七夕パーティー
(目白)

SA 主催・浴衣着付け教室
(目白)

校友会主催・七夕パーティー
(我孫子)



- 17日 SA 主催・流しそうめん
(我孫子)

- 21～22日 2018スマイルちば festival に生活文化学科が参加

- 26日 児童教育学科キャンパスコンサート



- 30・31日・8月4日 保育士資格取得特例科目講習①
乳児保育

Aug.
8月

- 3日 SA 主催・バーベキュー大会(我孫子)

- 1～3日 保育士資格取得特例科目講習②保健と食と栄養

- 6～8日 保育士資格取得特例科目講習③福祉と養護

- 23～25日 保育士資格取得特例科目講習④相談支援

Sep.
9月

- 4日 生活文化学科
「お弁当開発プロジェクト」
の最優秀レシピの表彰



- 14日 生活文化学科
スマイルキッチン実施



- 19日 児童教育学科
聖仁会病院訪問
合唱コンサート

Oct.
10月

- 20日 鶴雅祭

「笑顔満祭」
1日目



レシテーション&
スピーチコンテスト 他

保護者会(我孫子)

講演「保護者のための就活応援講座」
株式会社リクルートキャリア 土橋 堅斗氏

- 21日 鶴雅祭「笑顔満祭」2日目
平田広明トークショー 他

- 31日 校友会主催・ハロウィンパーティ(目白)



心理相談センター 無料体験講座 「アロマテラピーミニ講座」

10月20日(土)21日(日)に、心理相談センター無料体験講座「アロマテラピーミニ講座」を開催しました。今年で3年目になりますが、昨年からは学園祭の参加団体として申請し、学園祭に会場された皆さんにアロマテラピーを体験していただいています。開催は1日2回、2日間です。計4回実施しました。回が進むにつれて参加を希望される方が多く、定員超過により残念ながら参加いただけない方もいらっしゃいました。

体験講座は1回50分程度で、前半30分は配布資料をもとにしたレクチャー、後半20分はアロマスプレー作りを体験していただきます。最初にアロマの使用法や注意点などアロマの基礎知識についてのお話し、それから実際の香りを体験していただきながら各精油について解説していきましました。アロマの大まかな効果を分類すると、からだ・こころ・肌に分けられます。今回はアロマスプレー作りとなるため、主にこころへの作用について説明しました。精油によって気分を落ち着かせたり、反対に高揚させるなど、様々な効果があります。また、精油は同じ種類でも産地によって香りが異なります。そういったことも含めてお話ししたところ、皆さん熱心にお聞きくださいました。

今回は10種類の精油を用意し、3種類を上限として自由にブレンドしてもらいました。精油の効果で選びたくなりますが、ポイントはその時に心地のよい香りで選ぶことです。そのようなことをお伝えしながら、皆さん思い思いにブレンドを考えておられました。ピーカーに精油を1滴ずつ入れて香りを嗅いでみたり、参加者同士で相談しながら配合を考えていらっしゃいました。配合が決まったらエタノールと精製水を入れ、スプレーボトルに移し替えます。出来上がったアロマスプレーの香りをシェアして、感想を言い合いながら体験講座は終了となりました。今年は、職員が造花で作ったアロマの保留剤をお土産にお渡ししたところ、大変好評でした。



31日 SA主催・ハロウィンイベント
(我孫子)

Nov.
11月



10日 保護者会(目白キャンパス)
講演「保護者のための就職応援講座」
株式会社リクルートキャリア 土橋 堅斗氏

20日 創立者記念日

23日 児童教育学科 我孫子市合唱祭参加

Dec.
12月

6~7日 卒業論文提出

7日 『ちばI・CHI・BA』
川村学園女子大学デー
11/17(土)~12/15(土)まで東京駅
丸の内側 JP タワー KITTE 開催
「あじさいねぎの野菜ドレッシング」
「白樺派のカレー(川村バージョン)」
といった生活文化学科 開発商品を販売
7日は本学学生と教職員が商品説明に参加



9日 「温泉ソムリエセミナー
in川村学園女子大学目白キャンパス」
温泉ソムリエ協会・川村学園女子大学
目白観光文化研究所 主催



19日 児童教育学科・クリスマスコンサート
日本文化実技Ⅵ(能の仕舞・謡い)学内発表会

20日 学友会主催・クリスマス会(目白)
学友会主催・クリスマス会(我孫子)



Jan.
1月

16~17日 修士論文提出

17日 日本文化実技Ⅱ(日本舞踊)学内発表会

19~20日 大学入試センター試験

27日 一般Ⅰ期入試



Feb.
2月

9日 一般Ⅱ期入試

24日 一般Ⅲ期入試

Mar.
3月

12日 一般Ⅳ期入試

21日 学位記授与式 川村学園大講堂(目白)



2018年度 公開講座・講演会一覧

開催日	講座タイトル	講演者
6月 17日	としまコミュニティ大学 ヨーロッパの古城と宮殿 -イギリス編-	藤井 信行(観光文化学科教授)
7月	14日 としまコミュニティ大学 弘法大師空海の求法 ~古代東アジアの国際交流と美術~	真田 尊光(日本文学学科准教授)
	14日 心理相談センター 青少年のコミュニケーション・スタイル ①日本の青少年の特徴を知ろう ②うまくいかない伝え方・受け取り方を工夫するには	松井 洋(児童教育学科教授) 佐藤 哲康(心理学科准教授)
9月	14日 スマイルキッチン味覚チェックで美味しい食事	今井 久美子(生活文化学科教授)
	22日 としまコミュニティ大学 温泉観光学入門 ~知って得する!?温泉地の基礎知識~	小堀 貴亮(観光文化学科教授)
	22日 現代を生きる光源氏	千野 裕子(日本文学学科講師)
	29日 としまコミュニティ大学 プレグジットとは何か:イギリスの産業風洞化と階級差別 <風俗画から読み解く>ヴィクトリア朝の女性たち	菱田 信彦(国際英語学科教授) 小泉 朝子(国際英語学科准教授)
10月	8日 体操教室	松本 祐介(児童教育学科准教授)
	13日 2018年秋の公開講座 明治維新150年 ①明治維新の変革 ②明治日本における翻訳、翻案~イギリス文学を中心に	西川 誠(観光文化学科教授) 小泉 朝子(国際英語学科准教授)
	20日 2018年秋の公開講座 明治維新150年 ③江戸の名所絵からたどる江戸東京の移り変わり ④芸能者からみた明治日本~歌舞伎と民俗芸能を中心に	小林 信也(史学科非常勤講師) 伊藤 純(日本文学学科講師)
	27日 2018年秋の公開講座 明治維新150年 ⑤吉之助と小五郎~薩長同盟・征韓論・西南戦争 ⑥中世史家の見た革命と王権~明治維新とフランス革命を比較して	西川 誠(観光文化学科教授) 金尾 健美(史学科教授)

心のふるさと G オフィース

教員となった卒業生を応援します

児童教育学科には創設以来Gオフィスという集まりがあります。現在は年に9回土曜日に開催しています。この集まりには二つも大きな役割があります。まずはじめは卒業して教壇に立つ、卒業生の仕事上の困りごと、悩み相談に応じることです。「学級に集団になじめない子どもがいる」「授業中に落ち着きがなく席を立ってしまう子どもがいる」「学級に落ち着きが見られない」内容は様々です。そんな悩みに学科の教員が相談にのり、アドバイスをしたり、やってきた先輩教員が自分の解決方法を教えてくれたりします。話が終われば、楽しいお茶会も待っています。うまくいった授業の話、大変だった行事の話。苦勞話に花が咲きます。こんな話も、後輩達

にとっては日頃の授業へ活かせるヒントがいっぱいです。そしてもう一つの大きな役割が卒業生に採用試験の情報を提供することです。卒業して講師として教壇に立つと、授業の技術は向上しますが、採用試験に向けての最新情報はなかなか手に入りにくいものです。卒業後も継続して卒業生をバックアップしていく集まりは他大学ではありません。(向野 光)



花時計 vol. **40** 2019年3月1日 発行日

【発行】川村学園女子大学 【編集】広報委員会

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
TEL 04-7183-0111 (代表)
ホームページ <https://www.kgwu.ac.jp/>

■目白キャンパス

〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目1番19号
TEL 03-3951-0111 (代表)

大学ホームページ



大学ブログ

